

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立明成小学校

①児童アンケート

(1)英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (％)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	49.0	36.0	11.0	4.0	0.0
問2	英語科の勉強は大切だ。	78.0	20.0	0.0	2.0	0.0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	51.0	38.0	11.0	0.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	35.0	40.0	18.0	7.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	41.0	22.0	33.0	4.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	80.0	18.0	2.0	0.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	78.0	20.0	2.0	0.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	74.0	20.0	4.0	2.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	44.0	36.0	15.0	5.0	0.0

(2)デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	63.1	24.4	9.2	2.2	1.1
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	55.0	34.2	7.6	2.7	0.5
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	63.7	24.4	9.8	1.6	0.5

②指導改善の具体策

【英語科】 「英語の勉強は好きだ」「授業の内容が分かる」の肯定的回答の割合が高い一方で、「英語で質問する」「英語の質問に答える」の割合は低い状況にある。そこで、会話を繋ぐ楽しさを実感させるため、苦手意識を持つ児童に対しては、単語やジェスチャーから会話を始められるようスモールステップで指導を行う。また、安心して表現できる環境を整え、インタビューゲームなど友達同士で質問し合えるペアワークを充実させていく。 【デジタル科】 すべての設問に対して肯定的な回答の割合が高いことから、校内でのICT活用は定着してきていると考えられる。今後はさらなる質の向上を目指し、授業における効果的な活用方法の改善を図っていく。具体的には、児童が思考を深められるよう、他者参照や学習成果の共有などを一層充実させていく。
--

③学校関係者評価

・生活の中で生かせるように、英語教育を充実させていく必要がある。 ・身体的影響を理解し、児童自らが健康に配慮して、ICT機器を主体的に使いこなして欲しい。 ・情報リテラシーを高めるために、デジタルシティズンシップの充実を図る必要がある。
--